

# 百人町教会週報

2017 年 12 月 3 日

## 主日礼拝順序

司会 吉田日南子

証詞 賈 晶淳

### 待降節 第 1 週

奏楽 泉谷五十鈴

受付 町田龍次

前奏 Prelude

蠟燭点火 Candle Fire **242 番 1 節**

讃美 Hymn **253 番**(踊れ、わが心)

聖書 Scripture **マタイによる福音書 18 章 10-14 節**(新 35p)

祈祷 Prayer

ニケア信条 Nicene Creed **93-4-2**

献金 Offering

献金の祈り Offering Prayer

報告 Report

讃美 Hymn **97 番**(羊飼いの羊飼いよ)

証詞 Testimony **「あなたがたはどう思うか」**

祈祷 Prayer

讃美 Hymn **200 番**(小さいひつじが)

昼食 Commensal

応答 Response

祈祷 Prayer

後奏 Postlude \*讃美歌の時は座ったままでも結構です。

## 今年の聖句

『見よ、新しいことをわたしは行おう。今や、それは芽生えている。あなたたちはそれを悟らないのか。わたしは荒野に道を敷き、砂漠に大河を流れさせる。』イザヤ四三の一九

## 今週の聖句

『あなたがたはどう思うか。ある人が羊を百匹持っていて、その一匹が迷い出たとすれば、十九匹を山に残しておいて、迷い出た一匹を捜しに行かないだろうか。』マタイ一八の一二

## ✦ 本日の集会

世話人会 礼拝後

## ✦ 今週の集会

聖書研究会 12月6日(水)午後7時 夕食～ 赤尾 穰氏宅  
聖書 サムエル記下 12 章 担当 赤尾 穰氏

## ✦ 来週の集会

主日礼拝 12月10日(日)午前10時半 証詞 賈 晶淳氏  
自然農の会 12月12日(火)午前9時～昼食 ASO ハウス  
家庭集会 12月15日(金)正午 昼食～ 牧師館  
聖書 創世記 34 章 担当 雨宮道子氏  
読書 『わたしを離さないで』担当 坂百合子氏

## ✦ 案内と消息

クリスマスカード作成中

CS クリスマス会 12月23日(土)12時-18時 赤尾泰子氏宅

クリスマス礼拝・祝会 12月24日(日)11時-15時頃

クリスマス献金のお願い 予算 90 万円(月約献金訳 2 ヶ月分)

## ✦ 先週集会報告

	女	子	男	計	席上献金	
主日礼拝	11/26	18	1	8	27	23, 320
聖書研究会	12/6					
自然農の会	12/12					
家庭集会	12/15					

次週	司会	証詞	奏楽	受付・献金	会員日誌
	空閑厚樹・賈 晶淳・朴 美卿		長谷川まつ子・太田道子		

集会場所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-34-13 東京家政専門学校 2 階 <http://www.hyakunincho-church.com> 携 090(6176)5403  
連絡先 〒162-0066 新宿区市谷台町 14-1 塚越 TKビル 701 賈 晶淳(カ ジョンソン) Tel/Fax 03(3351)0807 E-mail roba@chic.ocn.ne.jp

## ◇牧師日誌◇

No. 572

最近読んだ聖書で意外なところに気がついた。出エジプト記 23 章 2-3 節で、律法の「法廷において」の一部である。

「2 あなたは多数者に追従して、悪を行ってはならない。法廷の争いにおいて多数者に追従して証言し、判決を曲げてはならない。3 また、弱い人を訴訟において曲げてかばってはならない。」23 章 6 節にも似ている定めがある。「あなたは訴訟において乏しい人の判決を曲げてはならない。」古代世界における法律の中に法廷における公正と公平について定めているところであり、当然のような内容であるが、あの古き時代にここまで中立的な立場を取っていることには驚きである。今でも多数者に追従することは多く、批判され当然だと思いが、3 節の訴訟での弱い人のために働くことを禁止することは「情状酌量」という言葉があるように、ある程度は認めて欲しいことでもあるがそれをも禁じている。良く思えば弱い人のために働くことが多かったことだったかも。しかし、この場合の弱い人とはどのような存在だったかが疑問に残る。英訳聖書(NRSV)を見ると両方とも貧しい者(poor)となっている。経済的弱者である。そうするとこの弱い人とは社会の全ての弱者を含むものではない。それら人には法廷に立つ権利は与えられているのだろうかまだ疑問が出てくる。

別の話だが韓国の宗教者(牧師、僧侶など)に次年度から所得税が賦課されるようになった。これまでは自主的経済的弱者であることが認められて来たが、一方では市民的義務として当然払うべきだと教会の内外から声が出てから長い。

## ◇会員日誌◇

金井美彦

砧教会にお世話になって早 3 年が過ぎました。この間、主任の牧師としての責任の重さをひしひしと感じております。いつの間にか、「期待される人間像」を演じてしまいそうで、やや戸惑っていますが、昔からの尖った気持ちも忘れてはいるわけではありません。毎週の説教は基本的に聖書講解の形をとり、この 3 年でルカ、マタイ、ローマ書、マルコ、第二コリントの主な箇所を取り上げ、自分なりの深読みをして、自由に喋っています。パウロの手紙にまともに取り組むのは初めてですが、彼のテキストをこの時代に役立てることができるのかを念頭に置きながら読んでいます。

パウロ書簡に限らず、聖書に盛られた思想が「役に立つのか」というのが、最近の問題意識の中心です。もちろん、役に立つに決まっているのですが、一人でそう思っているだけでは仕方がないので、それをわかってもらわねばなりません。このことは、もちろん教会だけでなく、学校の授業でも同じです。

現在、大学(フェリスと立教)だけでなく、神学校(聖公会神学院、聖書神学校)でもクラスを担当していますが、後者においては、聖書がこの時代の人々の糧となるかを念頭においてこれを読むように学生に呼び掛けています。単に歴史的文献として読むのでもなく、あるいはキリスト教神学の弁証のために読むのでもなく、この時代の人間に直に力を与えるテキストとして読むことが先決であると考えます。もちろん難しいことですが、「ほんとうに役に立つか」と問いながら読むと、最近ほどの聖書のテキストも自分にとって非常に生き生きとしたものとして迫ってくる感じがしています。いつかまとめて提示したいと思っています。